

サマーレビュー2013 調書

1 部局名・区名(課名)	環境部 (資源廃棄物政策課)	2 優先順位	特命 1																																								
3 事項名	ごみ減量対策について																																										
4 目的	循環型社会の形成にはごみの減量は大きな課題であり、本市ではごみ減量アクションプラン(平成23年6月)を定め、生ごみの削減や雑がみの回収等を通じたごみ減量を推進しているところであるが、今後、新規ごみ処理施設の小規模化による財政負担の軽減などのためにも今後より一層の取り組みの強化が求められている。																																										
5 現状及び課題	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ごみ 排出総量</th> <th>(前年比)</th> <th>もえるごみ の量</th> <th>(前年比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年度</td> <td>288,168.6t</td> <td>(101.5%)</td> <td>226,167.4t</td> <td>(100.6%)</td> </tr> <tr> <td>23年度</td> <td>283,940.1t</td> <td>(100.7%)</td> <td>224,773.2t</td> <td>(102.5%)</td> </tr> <tr> <td>22年度</td> <td>282,072.8t</td> <td>(95.2%)</td> <td>219,238.3t</td> <td>(95.4%)</td> </tr> <tr> <td>21年度</td> <td>296,414.8t</td> <td>(95.5%)</td> <td>229,913.1t</td> <td>(95.9%)</td> </tr> <tr> <td>20年度</td> <td>310,361.6t</td> <td>(97.9%)</td> <td>239,683.7t</td> <td>(98.8%)</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>316,946.5t</td> <td>(98.6%)</td> <td>242,588.4t</td> <td>(100.3%)</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>321,524.3t</td> <td></td> <td>241,979.6t</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ごみ排出総量とは、ごみ・資源物の収集量と資源物集団回収等の計 ごみ排出総量、もえるごみ量とも23年度を境に増加傾向に転じている。</p>				ごみ 排出総量	(前年比)	もえるごみ の量	(前年比)	24年度	288,168.6t	(101.5%)	226,167.4t	(100.6%)	23年度	283,940.1t	(100.7%)	224,773.2t	(102.5%)	22年度	282,072.8t	(95.2%)	219,238.3t	(95.4%)	21年度	296,414.8t	(95.5%)	229,913.1t	(95.9%)	20年度	310,361.6t	(97.9%)	239,683.7t	(98.8%)	19年度	316,946.5t	(98.6%)	242,588.4t	(100.3%)	18年度	321,524.3t		241,979.6t	
	ごみ 排出総量	(前年比)	もえるごみ の量	(前年比)																																							
24年度	288,168.6t	(101.5%)	226,167.4t	(100.6%)																																							
23年度	283,940.1t	(100.7%)	224,773.2t	(102.5%)																																							
22年度	282,072.8t	(95.2%)	219,238.3t	(95.4%)																																							
21年度	296,414.8t	(95.5%)	229,913.1t	(95.9%)																																							
20年度	310,361.6t	(97.9%)	239,683.7t	(98.8%)																																							
19年度	316,946.5t	(98.6%)	242,588.4t	(100.3%)																																							
18年度	321,524.3t		241,979.6t																																								
6 事業概要	<p>本市のごみの現状を踏まえてターゲットを定めてごみ減量施策を推進する。</p> <p>○「水切り」に関する情報発信(新規・臨時)</p> <p>○生ごみ処理機補助</p> <p>○コンポスト・密封発酵容器配付</p> <p>○段ボール式コンポスト普及</p> <p>○環境教育の推進(一部新規)</p> <p>○資源物集団回収の振興(一部新規)</p> <p>○資源物の回収拠点の再構築(臨時)</p> <p>○インクカートリッジの回収</p> <p>○廃食用油の回収</p> <p>○スマートフォンアプリによる情報発信(新規)</p> <p>○環境美化活動の推進</p> <p>○ごみ減量に関する意見交換(臨時)</p> <p>○ごみ減量・資源化・適正処理計画に基づく指導(新規)</p> <p>○事業系生ごみの減量対策(新規)</p> <p>○家庭用小型電子機器類の回収</p> <p>○マイバッグ・マイバスケット運動</p>																																										
7 関係法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律																																										

8 スケジュール(いつ、何をやるか)	<p>【26年度から実施する新規・臨時事業】</p> <p>生ごみの「水切り」、「ひと絞り」に関する取組については、NPOとの意見交換などを行っているところであり、本年度中にモデル的に団体や自治会に説明会を行いながら水切りグッズについての検証または新たなグッズの開発を進め、26年度から本格的に説明会やイベント参加を行う。転入者へのグッズ配布は、26年度からグッズが揃い次第速やかに開始する。啓発リーフレットの配布については、26年度を皮切りに3年に1回程度実施する。</p> <p>資源物の回収拠点の再構築については、27年度からの再編に向けて本年度中から所要の検討(民間の古紙ステーションの状況や資源物集団回収の状況を踏まえたマッピングや業界団体や自治会との意見交換など)を進める。</p> <p>スマートフォンのアプリ提供については、26年度中の速やかな開発・供用開始を目指す。</p>	
9 他都市等の参考事例	<p>札幌市では、水切りグッズを開発し特許申請中。11月頃には1万世帯への配付や店舗での全国販売を計画している。</p> <p>横浜市では生ごみ削減に向けたパンフレットを作成・配付している。</p> <p>横浜市、富士市ではスマートフォン向けアプリを無料で提供している。</p>	
10 市長マニフェスト	<p style="text-align: center;">該当 / 非該当 (※いずれかに○) (マニフェストの一連NO.: 60) (※該当の場合記載)</p>	
11 過去のレビュー等での審議経過	<p>なし(新規提案) あり その他</p>	<p>具体的内容</p> <p>副市長レビュー(H25.5.15)において、現事業の検証結果と研究会の状況と具体的に何を実施するのかを検討し、再度副市長レビュー等で協議することとされた。</p>
12 サマーレビューで審議、確認したい事項 (該当項目を□→■)	<p>事業等の新規提案 既存事業の見直し その他</p>	<p>具体的内容</p> <p>事業内容(方法、規模など)について</p>
13 レビューの論点 (担当ヒアリングで確認、実施後記載)	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量施策についての協議。 <p>【特筆すべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水切りの促進や資源物の拠点回収の再構築、スマートフォンアプリによる情報発信などの提案がある。 ・ごみ排出総量、もえるごみ量とも23年度を境に増加傾向に転じている。 	
14 サマーレビュー結果 (実施後記載。該当項目を□→■)	<p>提案どおり進める 提案内容を一部見直しを進める 再度、調査研究等を行い検討 その他</p>	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水切りグッズをつくり、全戸配布を検討する。 ・雑紙を減量させる対策を今後も実施する。
15 その他		